

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
EU41C501	教育データの分析と活用(Analysis and utilization of Educational Data)					高度専門科目									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	1	教育学研究科	通年	他	氏名 麻生良太・長谷川祐介・藤田敦・渡邊英樹 E-mail ryoaso@oita-u.ac.jp, yhasegawa@oita-u.ac.jp, a-fujita@oita-u.ac.jp 内線 7584,									
授業の概要	教育成果のエビデンスとしての様々な教育データを、いかに測定・分析し、その結果を実践に還元・活用していけば良いかという課題について探究する。まず、教育現象の測定法として、調査研究の手法について学び、実際に調査を計画・実施する。次に、そこで得られたデータを、推測統計的な手法を主に用いて分析し、教育現象の背後にある因果関係や構造を推定し結論を得る。最後に、その結論を踏まえ、教育現場に対してどのような提言が可能かを議論する。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	教育の取組成果(児童生徒の成長・学習・適応、教師の指導力・経営力、保護者や地域社会の意識など)を客観的に測定できる。														
目標2	測定結果を、実践計画の立案や改善のために活用していくことができる。														
目標3	量的なデータに対する推測統計学に基づく分析を実施し、教育現象や教育成果の説明に活用することができる。														
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	エビデンスに基づく教育とは														
2	調査の方法 問いを立てる														
3	調査の方法 調査方法を考える														
4	因果推論														
5	統計分析を用いた研究論文の検討														
6	Web調査の方法														
7	調査計画を具体化する 質問項目の作成														
8	調査計画を具体化する 結果の予測と記述														
9	統計処理の基本 (記述統計: 代表値, ヒストグラム)														
10	統計処理の基本 (記述統計: 分散, 標準偏差)														
11	統計処理の基本 (記述統計: 標準化, 偏差値, 相関)														
12	推測統計 (母集団と標本, 統計的仮説検定)														
13	推測統計 (t検定, 分散分析)														
14	調査計画の発表														
15	調査計画の発表														
ラ ア:知識の定着・確認 イ:意見の表現・交換 エ:応用志向 オ:知識の活用・創造	調査テーマを設定し、自ら準備したアンケート等によってデータを測定する。取得したデータを実際にパソコンソフトを利用して統計解析を行い結果を整理する。					工 夫 其 他 の									
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	調査研究のテーマや内容について計画する。(5h)													
	事後学修	表計算ソフト(エクセル), 統計プログラムの使い方について, 学習した内容を各自で練習しておく。(10h)													
教科書	教科書は指定しない。														
参考書	講義中に紹介する。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	グループワーク	30%													
	授業中の課題	30%													
	最終レポート(研究報告)	40%													
注意事項	統計プログラムは、フリーソフトを使用します。詳細は講義中に説明します。														
備考	講義では各自のパソコンを使います。 無線LANに接続可能なノートパソコン(Windows推奨)を準備してください。														
リンク	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	学校教育現場および教育委員会での実務経験あり
実務経験を いかした教 育内容	学校教育現場でどのようなデータがとられ、それを教育課題の解決のため、どのように活用していくべきかという視点で教育を行っている。